

ノムラ・ジャパン・オープン

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第59期(決算日2025年8月27日)

作成対象期間(2025年2月28日～2025年8月27日)

第59期末(2025年8月27日)	
基 準 価 額	20,147円
純 資 産 総 額	159,572百万円
第59期	
騰 落 率	18.7%
分配金(税込み)合計	550円

(注) 謄落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、ノムラ・ジャパン・オープンマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

〈運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法〉
右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択
⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

野村アセットマネジメント株式会社

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

●サポートダイヤル

0120-753104 (受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

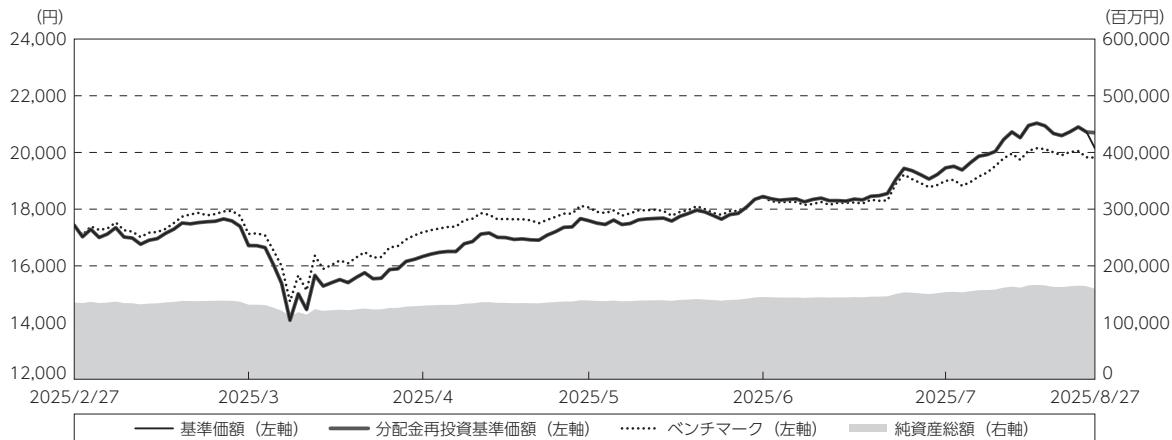
●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2025年2月28日～2025年8月27日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2025年2月27日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)です。ベンチマークは、作成期首(2025年2月27日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

* 基準価額は 18.7% の上昇

基準価額は、期首 17,432円から期末 20,697円(分配金込み)に 3,265円の値上がりとなりました。

・主な変動要因

(下落) トランプ米政権による貿易相手国に対する相互関税の詳細発表を受けて、世界景気全体への悪影響に対する不安が高まったこと。

(上昇) トランプ米政権が中国を除く多数の国・地域に対して相互関税上乗せ部分の90日間の一時停止を発表したことから、通商政策への懸念が後退したこと。

(上昇) 主要企業の決算発表が始まる中で自社株買いなど資本政策の発表が好感されたことや、米中の追加関税引き下げ合意など主要国間の関税交渉が進展したことなど。

- (上昇) 日米関税交渉について当初予定していた25%から15%へ引き下げることで合意したことが報じられたこと。
- (上昇) 米国との関税交渉に関する日本の負担軽減の特例措置適用や対中関税の一部延期の動きに加え、米国のインフレ懸念が後退したこと。

1万口当たりの費用明細

(2025年2月28日～2025年8月27日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 146	% 0.829	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(70)	(0.395)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(68)	(0.385)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内のファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(9)	(0.049)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	6	0.034	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(6)	(0.034)	
(c) その他費用	0	0.002	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	152	0.865	
期中の平均基準価額は、17,594円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

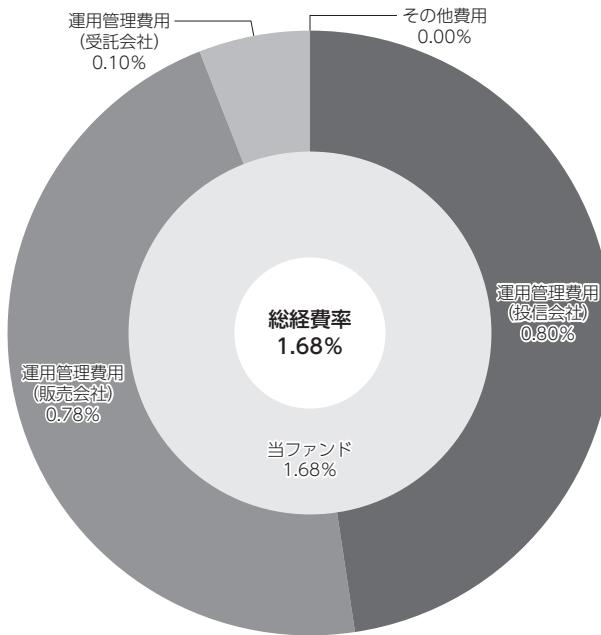
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.68%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

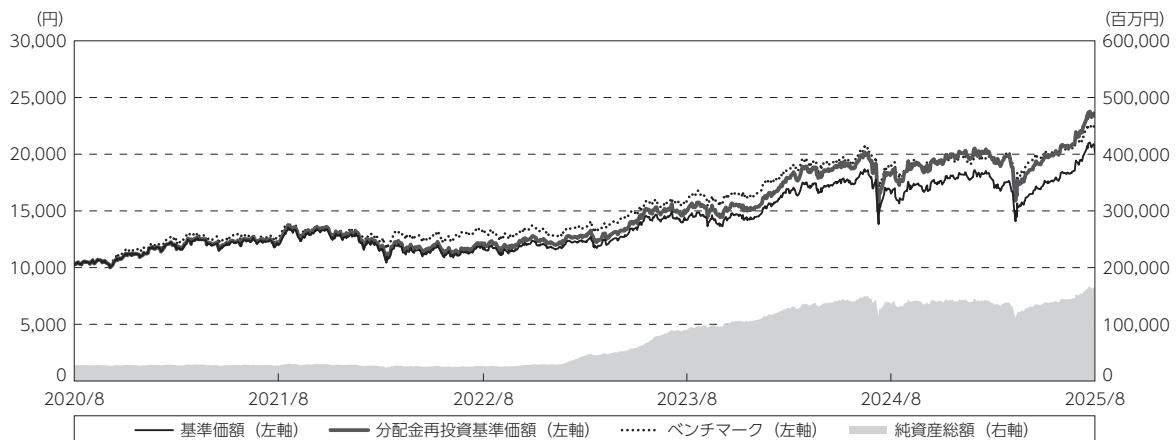
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2020年8月27日～2025年8月27日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2020年8月27日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）です。ベンチマークは、2020年8月27日の値が分配金再投資基準価額と同一となるように計算しております。

	2020年8月27日 決算日	2021年8月27日 決算日	2022年8月29日 決算日	2023年8月28日 決算日	2024年8月27日 決算日	2025年8月27日 決算日
基準価額 (円)	10,380	11,959	11,593	14,219	16,523	20,147
期間分配金合計（税込み） (円)	—	190	200	320	690	970
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	17.1	△ 1.4	25.6	21.1	28.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	21.9	3.2	21.5	19.2	17.4
純資産総額 (百万円)	27,932	27,156	25,932	90,058	134,535	159,572

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

投資環境

(2025年2月28日～2025年8月27日)

期首から期末にかけて、国内株式市場は上昇しました。トランプ米政権による貿易相手国に対する相互関税の詳細が発表されたことを受けて、世界景気全体への悪影響に対する不安が高まつたことなどから急落しました。その後は、トランプ米政権が中国を除く多数の国・地域に対して相互関税上乗せ部分の90日間の一時停止を発表し、通商政策への懸念が後退したことなどから反発しました。5月以降は、主要企業の決算発表において自社株買いなど資本政策の発表が続く中、米中の追加関税引き下げ合意や、日米関税交渉について当初予定していた25%から15%へ引き下げることで合意したことが報じられたことなどで上昇しました。8月に入ると、米国との関税交渉に関する日本の負担軽減の特例措置適用や対中関税の一部延期の動きに加え、米国のインフレ懸念が後退したことなどから、国内株式市場は上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2025年2月28日～2025年8月27日)

[ノムラ・ジャパン・オープン]

主要投資対象である [ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド] を期を通じて高位に組み入れ、実質株式組入比率は期末に98.2%としました。

[ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド]

・株式組入比率

株式組入比率は、期を通じて高位を維持し、期末に98.4%としました。

・期中の主な動き

特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持つなど競争力や経営力が高く、中長期的に堅調な業績拡大が期待できる企業に着目し、主にPER（株価収益率）などのバリュエーション指標に基づき、中長期で割安と思われる銘柄に投資しました。

<投資割合を引き上げた主な業種（東証33業種分類、以下同じ）と銘柄>**①機械**

新型の油圧ショベルの拡販などによる収益性改善に期待した小松製作所や、データセンター向けの板金機械の需要増加による業績拡大に期待したアマダなどを買い付けしました。

②電気機器

ゲーム＆ネットワークサービスを始めとしたエンターテイメント関連事業の業績拡大に期待したソニーグループや、シリコンサイクルの改善に加えて主力のエッチャードと製膜装置の成長による業績拡大を期待した東京エレクトロンなどを買い付けました。

③卸売業

アフリカ事業や堅調なトヨタ自動車の生産台数による業績拡大や株主還元の拡大を期待した豊田通商や、資産リサイクル益の顕在化や次期中期経営計画における利益成長施策に期待した三井物産を買い付けました。

<投資割合を引き下げた主な業種と銘柄>**①非鉄金属**

データセンター関連における堅調な需要拡大は評価しているものの利益確定目的でフジクラや、古河電気工業などを売却しました。

②証券、商品先物取引業

マーケット環境の不透明感が増す中での業績悪化リスクを懸念した大和証券グループ本社を売却しました。

③輸送用機器

インドの需要環境悪化によるマルチ・スズキ・インディア社の業績悪化を懸念したスズキや、BEV（バッテリー式電気自動車）の需要減少による車載向け製品の業績悪化を懸念したNOKを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2025年2月28日～2025年8月27日)

*ベンチマーク対比では5.0%のプラス

基準価額の騰落率は18.7%の上昇となり、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の13.7%の上昇を、5.0%上回りました。

【主な差異要因】

(プラス要因)

- ①ベンチマークに比べてパフォーマンスの良かったソフトバンクグループ、日本製鋼所、三井金属鉱業、横浜ゴム、SBIホールディングスなどの投資比率が相対的に高かったこと。
- ②ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった非鉄金属、建設業などの投資比率が相対的に高かったこと。

(マイナス要因)

- ①ベンチマークに比べてパフォーマンスの悪かったファナック、東京地下鉄、東京エレクトロン、ツムラ、大和証券グループ本社などの投資比率が相対的に高かったこと。
- ②ベンチマークに比べてパフォーマンスが良かった卸売業、陸運業などの投資比率が相対的に低かったこと。

分配金

(2025年2月28日～2025年8月27日)

- (1) 本期の分配金は、基準価額水準などを考慮して1万口当たり550円とさせていただきました。
- (2) 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

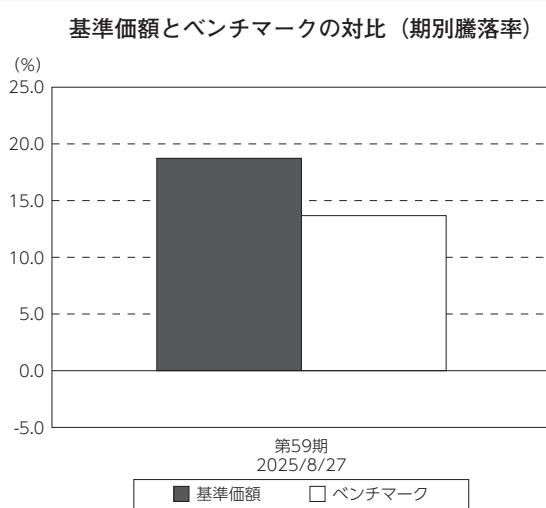
○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第59期	
	2025年2月28日～2025年8月27日	
当期分配金 (対基準価額比率)	550	2.657%
当期の収益	550	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	12,419	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



今後の運用方針

[ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド]

・投資環境

日本経済は、関税引き上げによる輸出鈍化などの影響が一巡した後は緩やかな成長に回帰するとみています。4～6月期の実質GDP（国内総生産）成長率は前期比年率+1.0%となり市場予想を上回りました。設備投資が同+5.5%、民間最終消費支出が同+0.6%となるなど底堅い推移となりました。関税引き上げ前の駆け込み需要の反動などもあり、今後の輸出環境は厳しくなるとみています。7月の日銀金融政策決定会合では、関税の内外経済への影響には留意しつつも、物価の上振れを意識する意見がみられました。植田日銀総裁は「大きな負のショックがない限り、労働市場は引き締まった状況が続き、賃金には上昇圧力がかかり続ける」との見方を示しています。日銀は、関税引き上げの影響を確認しつつ緩やかな利上げシナリオに戻るとみられ、当社では次回利上げを2026年4月と予想しています。

・投資方針

データセンター、5G、EV（電気自動車）などの成長産業において業界内で競争力を有する銘柄や、成熟産業において勝ち残る可能性の高い銘柄、特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持っている銘柄などに注目し、業績に見合った株価の銘柄を選別していく方針です。

当ファンドでは競争力が高く中長期で堅調な業績が見込める銘柄を、割安なタイミングで組み入れていくという基本戦略に基づき、ベンチマークを上回るリターンを目指します。

[ノムラ・ジャパン・オープン]

当ファンドは引き続き第60期の運用になります。

主要投資対象である [ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド] の組み入れを高位に維持して、基準価額の向上に努めます。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

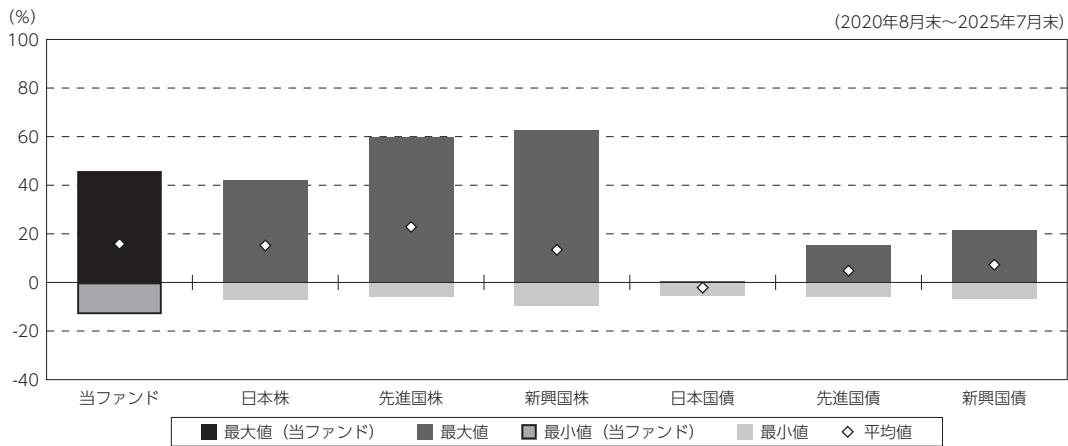
- ①「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正に伴い、運用報告書の電子交付に関する条文を変更する所要の約款変更を行ないました。 <変更適用日：2025年4月1日>
- ②「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」に適用する信託法を旧法（信託法（大正11年法律第62号））から新法（信託法（平成18年法律第108号））に変更する所要の変更を行ないました。 <変更適用日：2025年6月19日>

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	1996年2月28日以降、無期限とします。	
運 用 方 針	<p>わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。運用については、ボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行ないます。</p> <p>わが国の株式への投資にあたっては、上場株式および店頭登録銘柄の中から、株価の割安性をベースに企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して銘柄を選定し、投資を行なうことを基本とします。株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。ただし、市場動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。</p>	
主要投資対象	ノムラ・ジャパン・オープン	わが国の株式およびノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
運 用 方 法	ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。	
分 配 方 針	決算時に繰越分を含めた利子、配当収入と売買益等から基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、元本部分と同一の運用を行ないます。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	45.8	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値	△ 13.1	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 7.0
平均値	15.9	15.2	22.9	13.4	△ 2.1	4.8	7.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2020年8月から2025年7月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指標》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指標についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指標について」をご参考ください。

(注) 海外の指標は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

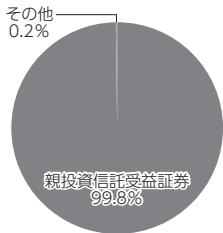
組入資産の内容

(2025年8月27日現在)

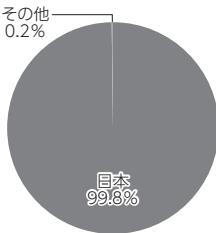
○組入上位ファンド

銘柄名	第59期末
ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

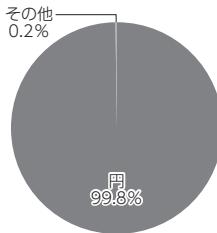
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第59期末
	2025年8月27日
純資産総額	159,572,800,636円
受益権総口数	79,202,678,474口
1万口当たり基準価額	20,147円

(注) 期中における追加設定元本額は10,874,431,538円、同解約元本額は9,225,541,851円です。

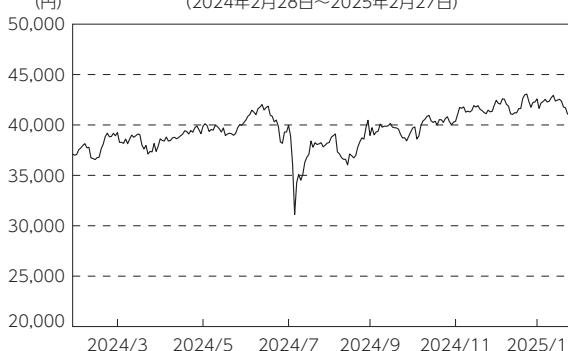
組入上位ファンドの概要

ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2024年2月28日～2025年2月27日)



【1万口当たりの費用明細】

(2024年2月28日～2025年2月27日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	24 (24)	0.061 (0.061)
合計	24	0.061

期中の平均基準価額は、39,804円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）

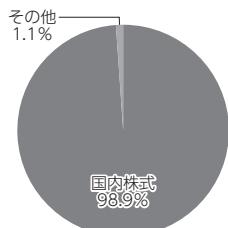
を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しております。

【組入上位10銘柄】

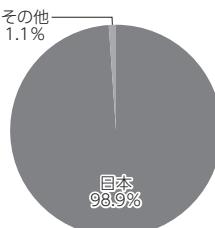
(2025年2月27日現在)

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 古河電気工業	非鉄金属	円	日本	5.1
2 フジクラ	非鉄金属	円	日本	4.2
3 富士通	電気機器	円	日本	4.0
4 住友不動産	不動産業	円	日本	4.0
5 ファナック	電気機器	円	日本	4.0
6 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	3.8
7 ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	3.5
8 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	3.0
9 日立製作所	電気機器	円	日本	2.8
10 日東电工	化学	円	日本	2.6
組入銘柄数		68銘柄		

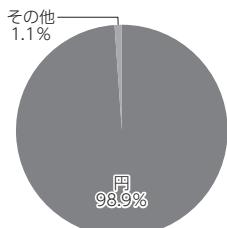
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指標について＞

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

配当込みTOPIX（「東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)」といいます。）の指標値及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指標の算出、指標値の公表、利用など東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) の指標値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。

○MSCI-KOKUSAI指標 (配当込み、円ベース)

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI指標 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指標です。同指標に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指標は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指標に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)」(ここでは「指標」とよびます) についてここに提供された情報は、指標のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファーメーション、或いは指標に関する何らかの商品の価値や値段を決めるものではありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JP Morgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行なったり、またはマーケットメークを行なったりすることがあり、また、発行体の引受け人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSSLC」と呼びます) (「指標スパンサー」) は、指標に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行ないません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指標に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指標スパンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指標スパンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指標は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指標に付随する情報について保証するものではありません。指標は指標スパンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指標スパンサーに帰属します。

JPMSSLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JP Morgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC.、またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)